

変える議会、 変わる議会

—改革はどこまで進んだか

「議論する議会」育んだ女性の進出
5割達した2003年が改革の転機に

神奈川県大磯町議会 (下)



ひとら 格 ただし
毎日新聞論説委員

神奈川県大磯町



議会 DATA

- ※令和3年4月1日現在
1. 議員定数：14人
 2. 女性議員率：50%
 3. 平均年齢：65.4歳
 4. 議会基本条例の有無：有

■自由に発言、「圧力」なく

神奈川県大磯町議会で2003年以降、女性議員が半数以上を維持していることと、その背景について前号で解説した。今回は、活発な議会活動についてふりたい。

5月15日、町議会による町民への議会報告会が行われた。新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、初めてオンライン形式で実施された。筆者もその模様を視聴した。

テーマは、新年度予算とワクチン接種など。2期目で予算特別委員会委員長を務めた鈴木たまよ議員(58)が予算を解説した。

鈴木議員はトルコ在住の経験も持つ同町に住む会社員だった。

住んでいるアパートの植栽の管理問題をきっかけに駅周辺開発など行政に関心をもち、2018年の補欠選挙で手を挙げた。「思いがけず」無投票で当選、議員活動を始めた。

翌年6月の改選町議選が初選挙戦となった。運動は手探りだったが選挙カーを用いず、子どもが小学校時代のPTA活動や、仕事を通じてできた友人らの協力を得て当選した。

鈴木議員は大磯町議会について「女性議員が多いからといって、特別に感じることはない」という。ただし、感じるのは、議員の発言が自由に活発なことだ。「妙な圧力」を感じることはなく、思ったことは言える雰囲気だという。

鈴木議員の指摘する発言の自由さは、実際には多くの地方議会で当たり前のこ

間40分となり、かなり多い。施政方針などに対する総括質疑は再質問が認められており、持ち時間は1人40分とされている。

大磯の議会改革は、女性議員の増加と二人三脚で歩んできた。

2003年、女性議員が5割を超した年からはずみがついた。翌2004年「議会だより」に議員ごとの議案賛否結果を公表する取組みがスタートした。ちなみに、議員の個別賛否については、現時点でも多くの議会が公表していない。同じ年、ケーブルテレビによる本会議



初めてオンライン方式で開催された議会報告会
(5月15日撮影、大磯町議会事務局提供)

の生中継・再放送を開始したことや、一般質問への対面方式の導入、質問席を設けるなどの改革が矢次早に行われた。2005年には、一般質問の際の質問回数の制限を撤廃した。議会基本条例は2009年に施行した。こうした改革を反映して同議会は2013年、早稲田大学マニフェスト研究所「議会改革度調査」のランキングで町議会部門の1位となり、全国的な注目を浴びた。

■議員提案で再生エネ条例も

政策提言では2014年に女性議員が中心となり、議員提案で省エネルギー・再生可能エネルギー利用推進条例を制定した。2011年に起きた東京電力福島第1原発事故を踏まえ、再生可能エネルギー利用を積極推進していく方向を地方議会として掲げたものだ。

ユニークなものでは2019年、当時の安倍晋三首相に「猛省を求める」異例の決議を採択したこともある。「森友学園」への国有地売却を巡る財務省の文書改ざん問題などを踏まえ、首相に「不正や疑惑を解明する任務を負っている」と指摘する内容だった。

女性議員比率を地方議会で増やしていくことが必要なのは、単に人口の構成比

だけの問題からだけではない。

地方議会の役割は大きく変化している。中央から地方がパイの配分にあずかり、地方議員もそれに関与する旧来構図に「男社会」は深くリンクしていた。

だが今や、分配の時代は終わり、地域に密着した政策課題や、行政監視への対応を議会は迫られている。

女性の政治参加を推進する公益財団法人「市川房枝記念女性と政治センター」の久保公子理事長は「女性議員が当選すると、支持した人たちの多くが傍聴に行く。また、男性に比べて活動を有権者に報告する『コミユカ』に優れている」とそのプラス効果を説く。女性議員が「存在すること」は、それ自体が議員の改革と多様さの指標となりつつある。

もちろん、大磯町議会の改革もおお上である。前述のマニフェスト研究所のランキングでは神奈川県内の町村議会でも箱根町議会、葉山町議会などが情報共有などで近年上位に進出している。大磯はむしろ「うかうかとしていられない」状況かもしれない。

それでも、女性議員数が議会のあり方を変えることを実証した存在感は色あせない。「議論する議会」としての挑戦は続いていくに違いない。